

3D プリンター活用によるプロセスイノベーションの今  
～アナログとデジタルの融合による革新的作業効率の変化について～

小澤謙太

世界に類を見ない超高齢化時代は、我々歯科技工業界にも様々な影響を及ぼしている。学生不足によって閉鎖となる歯科技工専門学校が増え、技術をもった人材が不足していることに加え、現職歯科技工士の高齢化や離職率の高さなどが挙げられ、技工士 1 人の負担がかつて以上に増えている。そんな中 2014 年に CAD/CAM 冠が保険収載されて 9 年が過ぎた。今や CAD/CAM 冠や CAD/CAM インレーは歯冠修復にとって当たり前の補綴物になってきた。一方義歯はどうであろう。今回は、義歯製作工程がデジタル化によってどのように変化したのかを、弊社の取り組みを基に現状を報告しようと思う。

かつての弊社は、毎日遅くまで仕事に追われ、肉体的にも精神的にも健全とは言えない職場であった。そんな弊社が 3D プリンターを導入して 4 年が経ち、デンチャー部門はデジタル化によって 1 日の仕事の流れが劇的に変化した。作業時間の短縮や品質の安定化だけでなく、ワークライフバランスを保ち、従業員が誇りを持って仕事に向かえるようになり、仕事への意欲と向上心という、従業員の意識改革にも繋がっている。デジタル化によってソフト・ハード両面での改革が可能になったこの歯科技工業界では、今後、歯科技工業界全体が連携をすることでこの難局を乗り越えていくことが出来ると考えている。